

競艇ファンの皆様へご報告します。日本財団

私達は、いま、どこで、何が最も必要とされているのかを見極め、支援活動を積み重ねています。



事業成果
ライブラリー

月間**100**万ヒット
(平成11年度平均)

15万ページ
(平成12年5月現在)

日本財団が支援した事業の成果をインターネットで公表しています。海洋、芸術文化、福祉など、さまざまな活動の現場からの情報は「知恵の電子図書館」。ヒット数の上位には、船舶電気装備講座や、シルバー向けの太極拳のテキストなど、ユニークなものがあります。

<http://www.nippon-foundation.or.jp/>

訪問入浴車の
整備

393台
(平成11年度)

寝たきり高齢者にお風呂に入っていたく事を目的に、訪問入浴車の整備をしました。日本財団はこれからも社会的弱者が自立し、いきいきと社会に参加するための援助を進めていきます。

急速な高齢化、少子化が進むなか、日本経済を支えるには今後年間60万人もの外国人労働者の受け入れが必要ともいわれています。しかし保健・医療・教育をはじめ、外国人への生活サービスは充分ではありません。日本財団は日本語教室、医療検診、生活相談など、在日外国人をサポートする約130の団体におよそ1億円の助成をしました。

在日外国人
への支援

約**130**団体
(平成6年度から11年度)

ボランティア支援

2,785件
(平成5年度から11年度)

福祉・環境・教育・まちづくりなど、さまざまな分野で「草の根」レベルの活動を行っている国内のボランティアグループやNPO(特定非営利活動法人)に、100万円を限度とした支援を行っています。

国家のお金ではありません。
私たちの活動資金は

競艇の売上の

3.3%

によってまかなわれています。

この公告に関するお問い合わせは、
日本財団広報部まで
TEL.03-3502-2375

デザイン・構成:株式会社アサツー ディ・ケイ 真島 徹

平成11年度も4つの事業分野を柱に活動しました。

公益・福祉事業
660事業585団体

168.7千万円

公益・福祉事業
(主な事業)

- ホスピス・緩和ケアの多角的な支援
- 障害者の地域生活支援施設の建築
- 文化芸術振興のための支援
- 犯罪被害者対策の推進
- 生涯スポーツの支援 など

海外協力援助事業
65事業64団体

62.1千万円

海外協力援助事業
(主な事業)

- アフリカの食糧増産をめざすSG2000プロジェクトの推進
- 東南アジアにおける視・聴覚障害者教育リーダーの育成
- アフリカにおける失明予防プログラムの推進
- 日米非営利団体(NPO)間のインターンシップの推進
- プランク文庫所蔵の占領期被検閲日本語文献の保存 など

ボランティア
支援事業
432事業625団体

13.1千万円

ボランティア支援事業
(主な事業)

- 自然とのふれあいの場である里山の保全活動
- まちで生活する障害者や高齢者への支援活動
- 日本で暮らす外国人の生活や教育への支援活動
- 不登校児が社会参加するための支援活動
- 車いす対応リフト付車両の寄贈(206団体) など

海洋船舶事業
220事業86団体

164.2千万円

海洋船舶事業
(主な事業)

- 最新のIT技術を活用した造船所と船用機器メーカー相互間の設計・技術情報の交換についての研究(造船Web)
- 船舶の積載(ふくそう)する日本沿岸域における自主分離通行方式導入の可能性に関する研究
- 人工衛星を利用したクジラに装着する海洋データ収集・送信システムに関する研究 など